**アンケートピックアップ**

**5月22日　NPO法人ETIC．　関根 純　氏**

**問１ 学んだこと、印象に残った言葉、講師へのメッセージ**

インターンに対して、職場体験というイメージしかなかったのですが、そもそもインターンには見学型・体験型・実践型の3種類があることを初めて知りました。また、周りの子も含めてインターンするのは3～4年生で就職のために行うものだと思っていましたが、自分の成長のためや生き方を考えるために1年生から、もしくは高校生の頃から始めるという人もいるのだなと驚きました。そして、今日1番印象に残ったのは「働かなくても生活できるとしたら働きますか。」という問いでした。今まで、「子どもが好き、人に教えることが好きだから教師になろう。」というように自分の好きな道を選んで進んでいるつもりでしたが、働かなくてよいのなら、果たして自分はブラックと言われる教師を選ぶのだろうか、と考えさせられました。(教育人間科学部　音楽学科　4年)

最後の「運」についてのお話で「注意しなければ運は見えない」という趣旨の言葉は今まで来られた講師の先生のも通じると感じました。よく講師の先生に「なぜ時代を読めるのか」と尋ねる人がいます。その答えの一つが今日の言葉ではないかと思います。（経営学部　1年）

大学は人生の夏休みと言われるように、自分も大学はたくさん遊んで３年生、４年生になってから就活を始めればいいと思っていた。しかし、LINEを作った方や、三宅さんは大学に入学してからすぐにインターンシップを始めていて、自分の夢を追い始めたという話を聞き、自分はこのままでいいのか、という疑問が湧いてきた。自分は特にやりたいこともなく横国の経営学部に入学したが、一歩ふみ出して何かやりたいことを見つけ、挑戦していきたいと思った。（経営学部　１年）

実際に同じ大学生が活動している姿が見られて良かった。インターンシップと聞くとどうしても就活する上での1つの手段と捉えていたが、自分らしさを見つけるチャンスと捉えるべきだと感じた。私も実際に2年生の時に離島へ行き定住者の方々の仕事を手伝ったり新たなことを提案していくインターンに臨んだことがあったが、初めての出会いや驚きをかんじ、自分がこれから何をしていきたいか自分と向き合い考えた期間だったように感じる。4年生であるためインターンシップをする機会は減っていくが、何事も義務的に捉えず自分探しの一環と捉えていきたい。(教育人間学部　学校教育課程　4年)

「実践型インターンで自分の軸をつくる」という言葉が印象に残りました。実践型のインターンシップは自分の想像以上に実践型で、実際に体験した戦費愛の話からも充実感が出ていると感じました。就活と関連付いた今までのイメージのインターンばかりではないと視野が広がった感じがしました。自分がおそらく体験するであろう体験型のインターンに参加する態度も変わってくるのではないかと思います。インターンを受ける際は主体性を持って参加できるきっかけになればいいなと思います。就活の延長ではなく、自分のキャリア見つめ直すきっかけとしても利用できるのではないかと思いました。（経営２年）

実際の横国生で家業イノベーションキャンプの企画・運営を経験した方のお話を聞けたのが大変良かったです。実践型インターンシップは言葉で聞いてもよくわからなかったけど、三宅先輩のお話を聞いて、自分の将来を考える非常に大きなきっかけになる場だと思いました。私は三宅先輩のようにならなきゃいけない仕事があるわけでも、なりたい職が決まっているわけでもありません。この大学に興味のある分野の学科があり自分の進む分野を見つけるために入学したので、こういった人たちよりはスタートが遅いかもしれませんが、逆に、インターンシップなどの自分の将来を考える機会によってまだまだ自分の道を自由に変えられる可能性があるのだと感じました。この４年間をどう過ごすかはとても大切だと思いました。１つの分野に絞って過ごすも、先輩のようにアクションを起こして人とコミュニケーションをとって新たな発見をするのも、この４年間の自分にかかっているのだと強く感じました。（理工１年）

働いている実感がないから、住宅メーカーの仕事を辞めたという決断力はすごいと思いました。やはり、仕事＝私事なのだと思いました。インターンシップは自分の生き方を見つけ、働く思想を育み、「自分軸」を作るという言葉が印象に残りました。私もインターンシップに積極的に参加し、「自分軸」を築いていきたいです。（経営学部　1年）

**問２ 今後のアクションにつなげていきたいこと**

インターンシップに参加して実践力を身に着けるだけでなく、運のよい起業家に共通する「周囲に注意を払う」ということを実践していきたいです。（経営学部　1年）

1年生のうちから絶対にインターンシップに挑戦しようと思いました。真理子さんのように、アイデアをノートにまとめ、できることから少しずつ行動に移したいです。いっぱい失敗していっぱい学んでいっぱい成長したいです。（経営学部　1年）

自分のやりたいことを見つけていきたいです。三宅さんが行ったインターンシップでは、自分のやることを最後に仲間に発表していたし、三宅さんは将来やりたいことをノートに書き留めていたので、「見える化」することが大切だなと感じました。やりたいことを見つけていく過程で、自分もちょっとのことでもいいから何かに書いて見えるようにしていきたいです。（経営学部　1年)

人を無個性にするシステムや、労働のM字カーブ等の自分らしく生きることを阻む壁が今日多数存在するが、そのような逆境の中でも個性が他に埋没しないように、1・2年の間に様々な経験をしていきたいと思う。また授業中に行った自己の価値を高めるための働き方で自分があげた思考をやめない課題の発見、人との意見の共有、比較ということは大学生活の中でもしっかりと頭に留めながらアクションしていきたいと思う。（経済学部1年）

１０日間のうちに「自分のやりたいこと」をある程度かためて、自分の個性や情熱をかけられるものを見極めたい。自ら行動を積極的に起こせるように情報収集にも力を入れて意識を変えたい。多くの経験を通して自分が成長できるように挑戦することを恐れずにやりたい。（理工学部、化学生命系学科、３年）

「生き方の価値を高めるためにどう働いていくか」という質問のとき、すぐに「こう働きたい」と思いつかなかった。今後大学生活の中で自分にとって働くとは何か考えたい。(教育人間学部　学校教育　4年)

最終的に海外インターンに参加したいので、まずはそこに標準を合わせた計画を立ててみようと思います。(経営学部　1年)

三宅さんが１，２年のうちに動き始めて自分に合ったものを見つけほかの人と差別化することが大切だとおっしゃっていたので、この授業をきっかけに主体的に見つけていきたいです。実践型インターンは自分の生き方、職業観、自分の軸を作るきっかけにもなると知り、私は今自分の軸が何かも分かっていないのでぜひインターンに参加してみたいなと思いました。些細な好奇心であったとしてもその心を無駄にせず大切にしていきたいなと思いました。インターンに参加するとしても受け身の姿勢だと無駄になってしまうので、しっかりと目的をもって参加していきたいです。（経営学部　１年）

「労働しなくてもよい時代が来たらどうするか」という問いは大学も同じだと思いました。授業も代行等で実は100%全力でやる必要はない、けれども本当にそれで良いのか。それこそ「自分軸」をしっかり持って後悔しない生き方をしていきたいです。（経営学部　1年）

**授業スタッフの感想**

今回の講義を聞いて、インターンシップに対する考えが変わりました。いつかやろうと漠然と考えていましたが、１年生の今すぐに行動を起こす必要があると思いました。だからQ学にも参加したいし真剣にインターンシップを始めるために行動を起こしたいです。真理子さんのお話は同じ部の先輩として非常に参考になったし私の決心のきっかけでした。すごく有意義な90分でした。ありがとうございました。

今回はインターンシップ・ガイダンスということで、１，２年生のうちに積極的にインターンシップに参加することの大切さを学びました。私はファッションや化粧品のほうに興味があったので、それらに関係のある企業のインターンシップに参加しようと考えていました。しかし、最近ラオスなどの発展途上国で、栄養失調や紛争などで苦しんでいる子供たちについて知り、そういう子供たちの助けになりたいと考えるようになりました。これから、それに関するNPO法人や企業、国際機関などについても調べ、参加できそうなインターンやプロジェクトには積極的に参加していきたいです。そして、大好きなファッションと融合させる道も探していきたいです。

私の「大学でやりたいことが多すぎて困っている」という趣旨の質問に対して、「選択は必要。選択したものはド真剣に取り組む」というアドバイスをいただきました。これは近頃の最大の悩みでした。選択をするのは心苦しいですが、ご活躍されている方のアドバイスは身に染みます。また、「自分のことは、よく分かっていないものだ」という講師の先生と井上先生の言葉が意外でした。人生の先輩でさえ、よく分からないのですから、私は自分のことは全く分かっていないのでしょう。インターンシップでフィードバックをもらうことは自己を知る手段の一つですが、他者に自分を評価してもらうことが自己分析のポイントだと考えました。インターンは意義があります。うまくいけば成長に繋がります。しかし、採用目的のインターンが存在するのも事実です。今日の講義をヒントに上手にインターンと付き合いたいです。。